



日乗連ニュース ALPA Japan NEWS

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan

AAP 委員会

〒144-0043

東京都大田区羽田5-11-4

フェニックスビル

TEL.03-5705-2770

FAX.03-5705-3274

E-mail:office30@alpajapan.org

www.alpajapan.org

Date 2012.7.11

No. 35 - 47

東京工業大学工学部にて講義

2012年6月6日、東京工業大学工学部の総合科目「現代科学—技術と安全」の授業の一環として、日乗連 AAP 舘野委員長による講義が1時間半に渡り行なわれました。これは同大学で、現代社会における先端技術の安全問題について外部講師を招いて毎年行なわれているもので、航空以外にも原子力発電や遺伝子工学、化学プラント、薬品製造などの各分野における安全の専門家が講師となって講演が行なわれています。これらは正式な授業として扱われており、履修した学生には単位が与えられます。航空のテーマは「航空事故調査の立場から見る社会と安全」で、講演内容は以下の通りです。

- 1) 代表的な事件事例
- 2) 各国の事故調査制度
- 3) パイロット組合による事故調査
- 4) システム性事故とヒューマンファクター
- 5) 疲労のメカニズム
- 6) 航空事故と犯罪捜査

今年例年の講義内容に加えて、関越自動車道事故で社会からの関心が高まった「疲労」に関する考え方の理解を深めました。受講した学生総数は163名で、全ての学生から感想が寄せられています。その中には「疲労のメカニズムが良く理解できた」「運輸産業における疲労管理に対する重要性を再認識できた」、更に「日本の事故調査制度の問題」や「日本における犯罪捜査」に対する批判の声も聞かれ、「事故の最後の引き金を引いた人を処罰しても問題解決にならないという考えは飛行機事故に限らずあらゆる場面に当てはまると思う」という感想も述べられています。

日乗連では今後も対外教育活動を積極的に行い、安全問題について広く社会に理解を求めていきます。

